

I 平成 29 年度事業の成果と課題

12 年目を迎えた食育サポートセンターは認知度も上がり、活動回数は、年間 20 回程度と安定した回数を推移している。平成 29 年度も、県内一円から多様な団体から派遣依頼を受け、各団体の催しに協力することができた。依頼元からいただいたコメントも良好で、あすなろ隊の活動は県内で認められていると考えられる。

これまで佐賀県との協定に基づき開催してきた「食育推進リーダー養成講習会」は、平成 28 年度から「食育推進交流会」となった。地元鹿島で料理研究家として活躍されている松尾久美子様からご講演いただき豊富な食材に恵まれた佐賀の魅力を再発見することができた。続いて行われたパネルディスカッションでは、佐賀の生産者、流通業者、学校現場から事例紹介をしていただき、食を取り巻く様々な問題が浮き彫りになった。

また今年は、食育サポートセンター独自の活動としての「食まなび塾」を吉野ヶ里町の協力により、保育園で 2 回「手の洗い方」について園児に学んでもらう機会が得られた。本学学生が保育園児と一緒に活動することで、学生にとっても実践の学びの場とすることができた。

一方で気がかりなのは、あすなろ隊員の減少である。3 年生は 54 名、4 年生は 36 名と多くの参加がある中、1 年生は 15 名、2 年生は 5 名と極端に少なかった。今後のあすなろ隊の呼びかけ方や運営方法を考える必要がある。

主な成果

- ① 「食育サポートセンター」が食育の拠点として地域に定着している。
- ② 佐賀県との協定による「食育推進交流会」を成功裏に開催できた。
- ② 保育園、高校生、地域での食育活動に参画することで、学生が異世代交流を体験できた。

課題

- ① 来年度から新体制での食育サポートセンターの運営が予定されている。新体制への途切れない移行が必要である。
- ② 学内各部門の教員が連携し、個々の専門性を生かし、あすなろ隊へ助言、指導を行い、食育プログラムの構築について更に積み重ねていく必要がある。
- ③ 1～3 年生に対し重点的に活動への参加を促し、活動を通して学生の意識変容を促す必要がある。

平成 29 年度食育サポートセンター事業評価及び課題

事業区分	担当事業	事業評価	課題
推進体制	食育サポート運営委員会の主宰	委員会には、部会が設置できることから実務レベルの作業部会において、各事業の企画について円滑に取り組むことができた。 今年度は佐賀県との協定による「食育推進交流会」や吉野ヶ里町との協力による「食まなび塾」など新たな活動を円滑に進めることができた。	学生組織の強化と自主活動を推進していく必要がある。 自治体や構成団体との連携を強化する必要がある。
	学生食育ボランティアの組織体制	平成 29 年度学生食育ボランティア「あすなる隊」隊員数は 110 名であったが、平成 28 年度の 132 名から減少しており、活動する隊員が固定化している傾向が見受けられる。	1 ～ 2 年生の活動参加への動機付けや、支援の必要がある。
	県の委託事業等の実施	佐賀の有明海には全国的にも珍しくて美味しい食材が多くあり、佐賀の食材のすばらしさを再発見し、新たな調理法を知ることができた。また、水産業を取り巻く環境変化や後継者不足の問題、地元スーパーとして取り組んでいる食育活動、小学校での食育の実際、課題等を知ることができ、生産者、消費者、学校が繋がることの大切さ、魚の良さを見直し、魚を食べる機会を増やしていく、消費者の行動変容が、魚の地産地消、佐賀の漁業の活性化につながる、も一度、魚の消費について考えさせられる内容であった。	今回は「人を育てる食育！地域を育てる食育！佐賀の魅力を再発見、発信しよう！伝えよう」がテーマであった。昨年度に比べ、交流会の参加ブース数も増え、充実した内容の交流会・情報交換会となったと考える。今後も食品を通じた健康づくり、食品ロスについて等、第 3 次食育推進基本計画に関連したテーマでの実施を検討する。
食育プログラム構築のための活動	学園祭での食育体験コーナーの出展	大学祭において、例年通り食育体験コーナーと非常食・備蓄食材の展示などを行った。運営は教員とあすなる隊の学生およびあすなる隊の 1 年生ボランティア学生で実施した。親子連れや高齢者の来場が多く、関心の度合いも高かった。また、ボランティア学生も改めて、食育体験を通じた栄養や食品の特性に関する知識の定着に役だっていた。	今後は新たな企画や既存の食育教材のみならず、新規の教材開発も検討を加える必要があると考える。

事業区分	担当事業	事業評価	課題
食育プログラム構築のための活動	教材の開発及び貸出	実用新案に登録された「食育カード」は、わかりやすい食育教材として、県内外の食育活動に幅広く活用されている。 食事と運動のエネルギーバランスをわかりやすく学習するための教材「食育てんびん “はかるくん” (実用新案登録)」については、県内外からの貸出のニーズが高まってきた。 各種教材、機器の貸出は、平成 28 年度と比べ 24 回から 23 回とわずかに減少したが、楽しく分かりやすい教材として利用されている。	今後も佐賀県ならではの教材の開発を行う必要がある。 「食育てんびん “はかるくん”」の商品化を検討する必要がある。
	保育所・学校での活動	地元児童館や高等学校の食育活動を支援した。活動を通して学生は、食育の大切さ、食事のアドバイスをする喜びを感じることができた。	活動対象の選定、継続教育の検討も行う必要がある。活動前の学生の準備やミーティングを通し、円滑な活動に繋げる必要がある。
	地域での活動	29 年度は、吉野ヶ里町の保育園 2 か所において、「正しい手洗いについて」の講座を実施し、地域の食育推進に貢献した。 活動を通し、地域子ども達とのコミュニケーション力の向上、対象者にあった教材や指導の重要性を学ぶことができる学生主体の食育活動の良い機会となった。	今後も神崎市及び大学周辺地域への支援を継続していく必要がある。
	活動の評価	平成 29 年度も学生による自己評価に関する意識調査を行った。これによると、学生の満足度が高いことが伺える。	参加すると有意義な活動ができるので、今後は参加学生の増加に繋がる方策を編み出す必要がある。
食育サポートセンター運営	広報活動	本学のホームページのトップに「食育サポートセンター」の活動報告を随時掲載し、情報発信を行っている。 (http://www.nisikyu-u.ac.jp/food/)	今後は体制を新たにし、情報提供の体制と活動内容の充実を図る必要がある。また学内に対してはポータルサイトなどを通して、学生の参加呼びかけを強化する必要がある。

学生食育ボランティア「あすなろ隊」活動者の自己評価結果

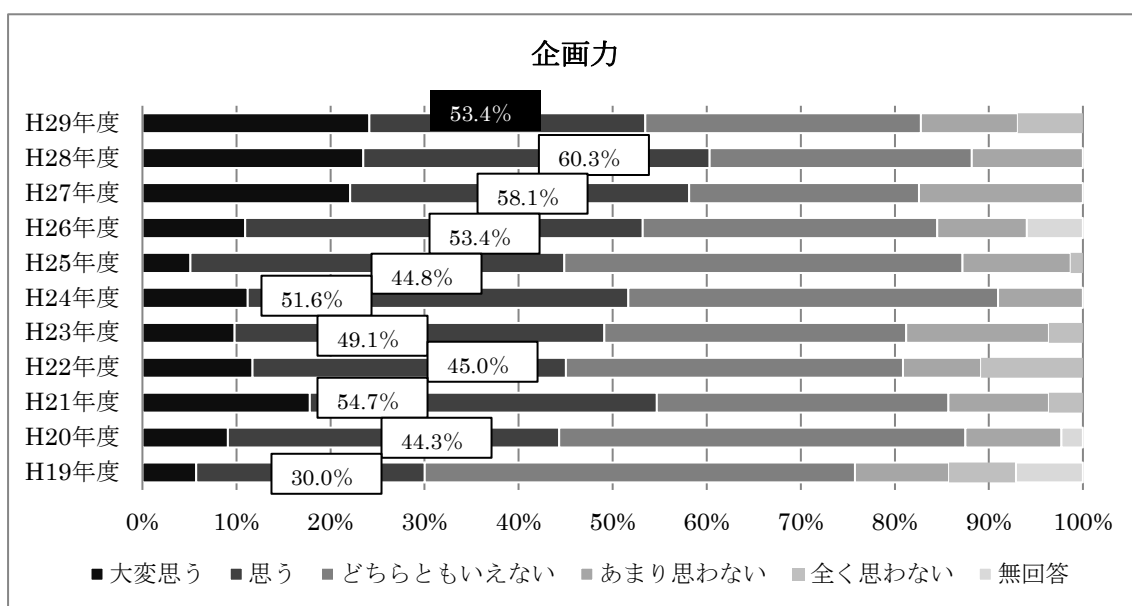
○自己評価の方法

対象：平成 29 年度にボランティアとして食育活動に参加した学生 62 名

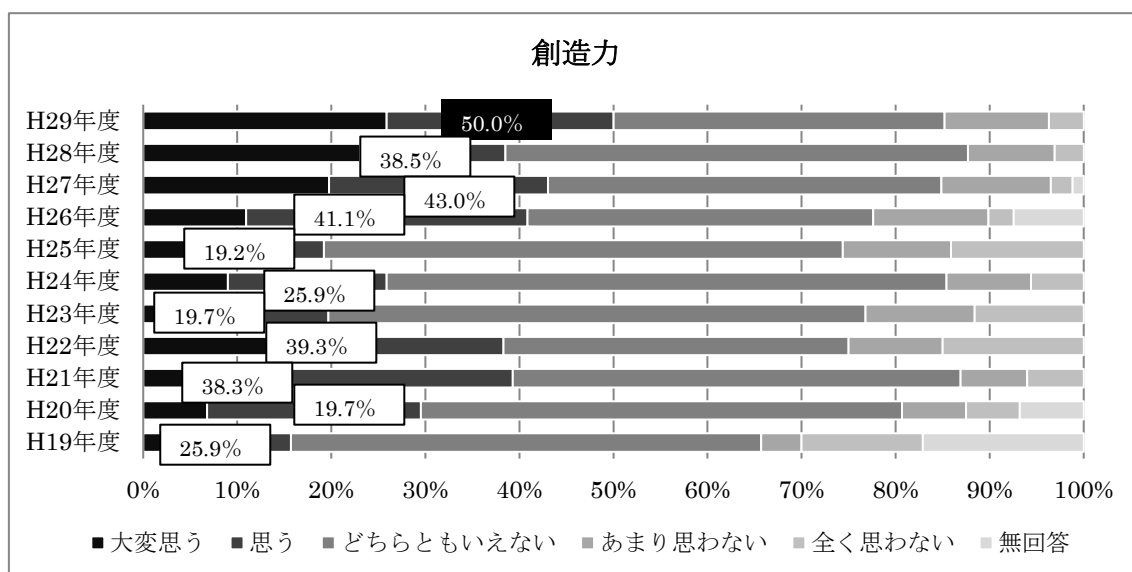
方法：企画力、創造力、コミュニケーション力、協働力、実践力の 5 つの項目について、自記式により 5 段階（5.大変思う、4.思う、3.どちらともいえない、2.あまり思わない、1.全く思わない）で評価

※表中のパーセンテージは、「5.大変思う」と「4.思う」の回答数の比率を示す。

◆**企画力**：活動を行うに当たっての一連の企画から活動を円滑に進めていくための事前準備ができた。

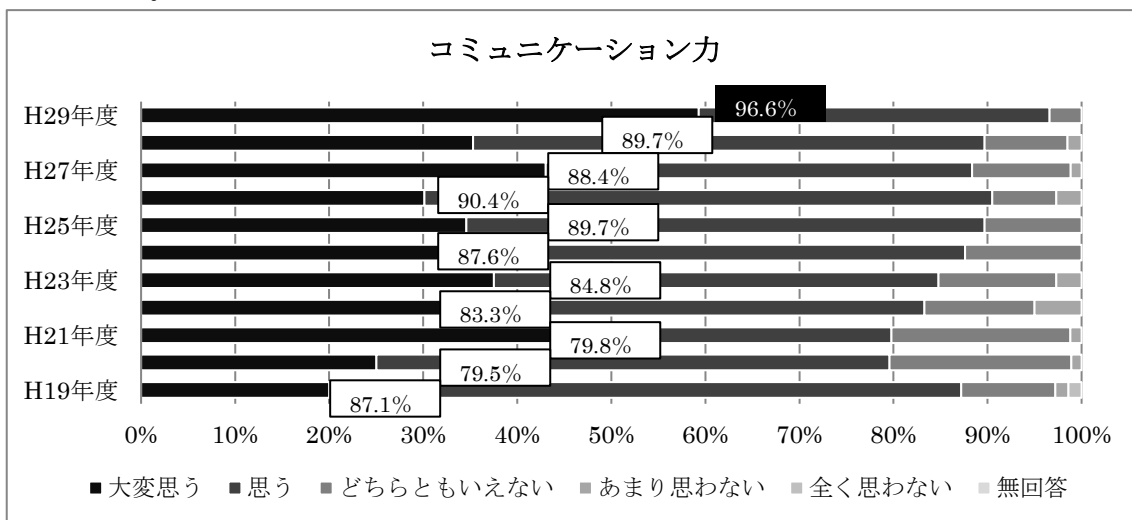


◆ **創造力**：想像力は高まっているが、今後とも工夫する必要がある。

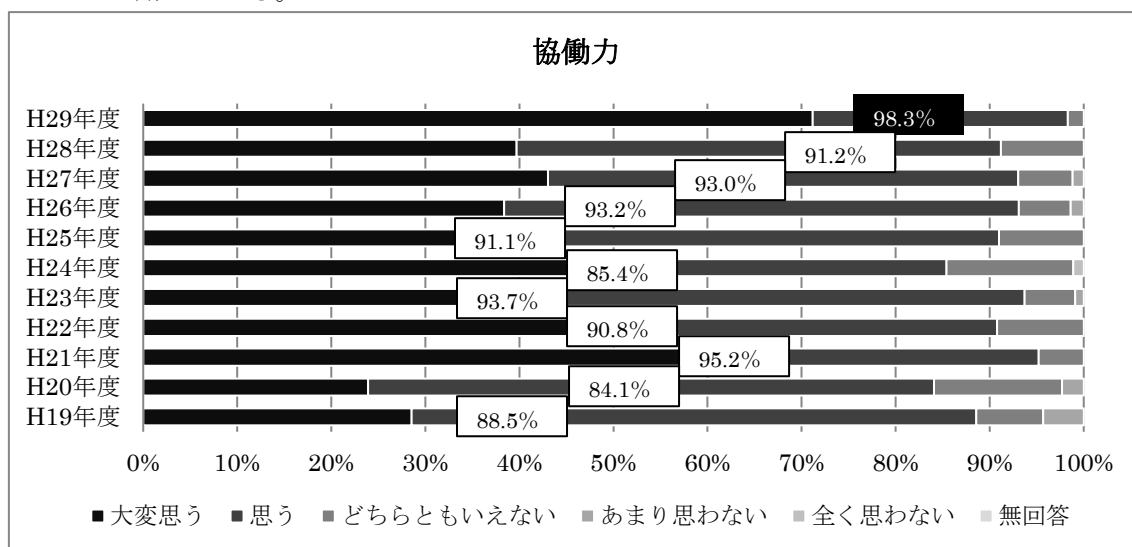


◆コミュニケーション力：

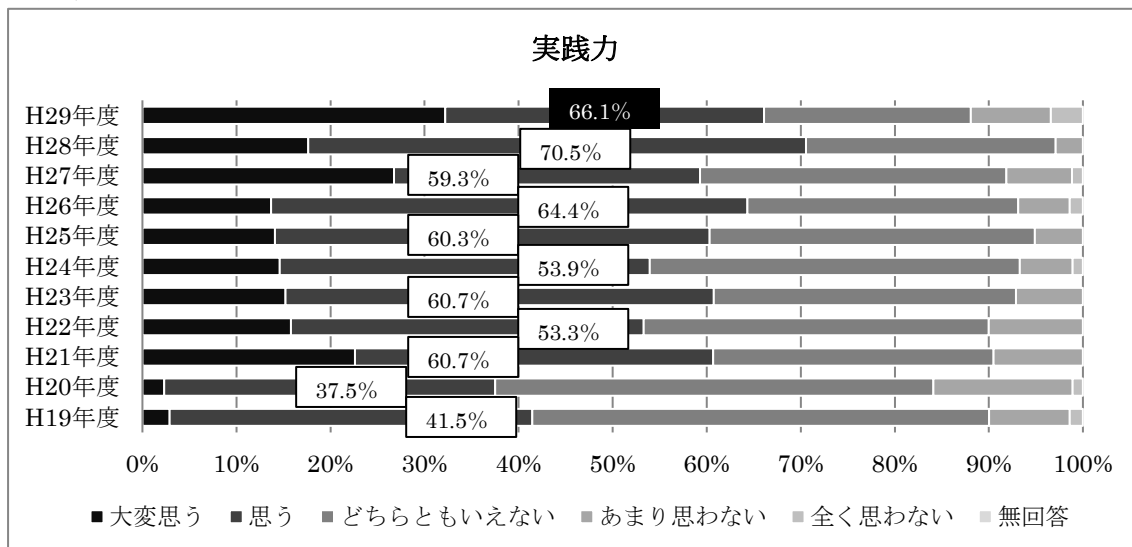
教育現場や地域での活動を通して、コミュニケーション力を身に付ける場として活用されている。



◆協働力：活動現場において、仲間や指導教員等との協働力の重要性を認識し、うまく活用している。



◆実践力：食育活動が、実践力を培う場として活用されている。



Ⅱ 味覚教育

味覚は、ヒトの五感の一つであるが、将来管理栄養士になるためには必要な能力の一つともいえる。健康栄養学科では、平成 19 年度から 1 年生を対象として食味テストを行っている。また、この検査は佐賀県産の極上海苔「有明海一番海苔」を選定する食味検査員の認定試験を兼ねている。「有明海一番海苔」は、県と県有明海漁協が平成 19 年度から売り出された極上海苔で、消費者の視点から味を厳選してもらおうと検査員が募集された。学生にとっては、佐賀の特産である海苔について学ぶとともに、本物の海苔を味わうよい機会となっている。食味テストには、閾値に調製した塩化ナトリウムやカフェインなどの水溶液 5 種類と無味の水を飲み比べ、甘味、塩味、酸味、苦み、旨味を識別するという味覚テストと、3 種類の海苔を食べ比べて柔らかさの順序を判定する柔らかさのテストがある。味覚テストでは 4 味以上正解するか、3 味を正解し残りの 2 味で水を選択しなかった場合、さらに、海苔の柔らかさのテストでは、柔らかさの順序をすべて正解した場合に合格となり、「有明海一番海苔」食味検査員認定証が交付されることになっている。

今年度は、平成 29 年 7 月 4 日に実施し、1 年生 102 人が受験した（写真 1）（新聞記事：<http://www.saga-s.co.jp/articles/-/123720>）。このうち、24 人が合格し、合格率は 23.5%と低かった。これまでの食味テストの結果を図 1 に示す。累計すると受験者は 1237 人となり、合格者の合計は 307 人となった。合格率については、用いた海苔が毎年異なったりすることから単純に比較はできないが、平均すると 2～3 割となっており、難関の認定試験ともいえよう。

この検査を通して、日頃の味付けを薄味にしようと考え直す学生もおり、味覚の重要性が伝わったと思われる。また、佐賀海苔のおいしさを知ること、消費が低迷している海苔の普及と消費拡大、つまり地産地消の推進にも貢献できたのではないかとと思われる。



写真 1 食味テストの様子

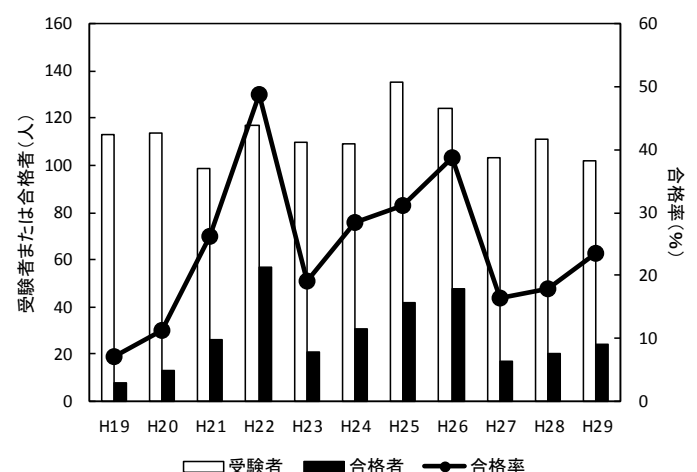


図 1 食味テストの結果の推移

Ⅲ 学生食育ボランティアあすなろ隊

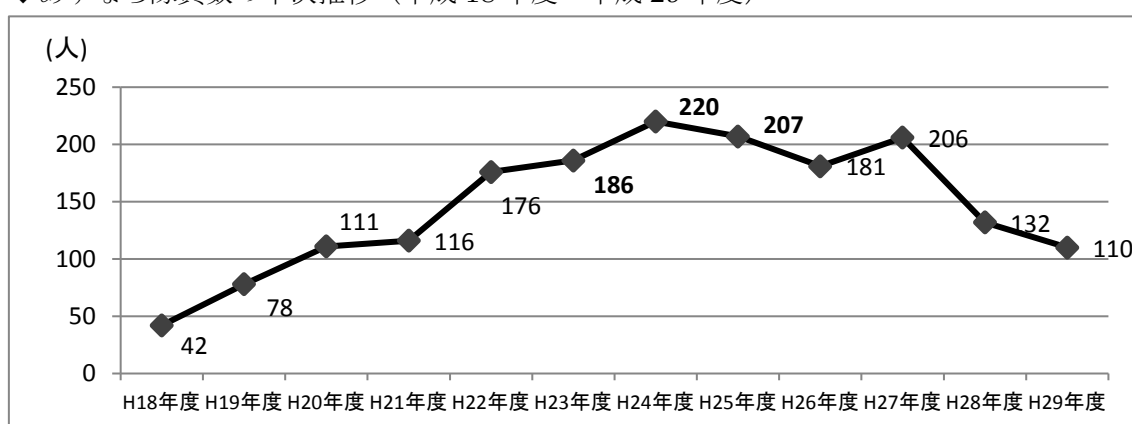
1. 隊員構成

永原学園の教育理念を象徴する言葉『あすなろ（翌檜）』は、学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を意味する。

「学生食育ボランティアあすなろ隊」は、西九州大学に在籍する学生の有志で構成されており、施設や自治体の行事やイベントへ参加し、“あすなろう”の精神で、食の体験活動をサポートしている。

現在、1年生 15 名、2 年生 5 名、3 年生 54 名、4 年生 36 名の計 110 名の有志が活動している。（平成 30 年 3 月）

◆あすなろ隊員数の年次推移（平成 18 年度～平成 29 年度）



◆あすなろ憲章

私達あすなろ隊員は、以下の項目を遵守し、県内の保育園、学校、地域における食育推進ボランティア活動を通し、自らの資質・能力を向上させるとともに、子どもを中心とした食育の充実を図り、豊かな人間性や生きる力を身に付けさせ、地域の食育活性に取り組むことを誓います。

第一

保育所、幼稚園などで行われる食育活動に可能な限り積極的に参加し、西九州大学生としての誇りを持って活動します。

第二

現場での活動に関しては、幼児や児童の安全を第一に行動するとともに、自身並びに協働する方全員 of 安全を念頭において活動します。

第三

活動の推進にあたっては、指導教員・関連機関の指導を遵守しながら、自ら積極的に行動します。

第四

幼稚園、学校などの教育現場においては、現場の先生・職員の方々の指導に従い、協調して活動を進めます。

第五

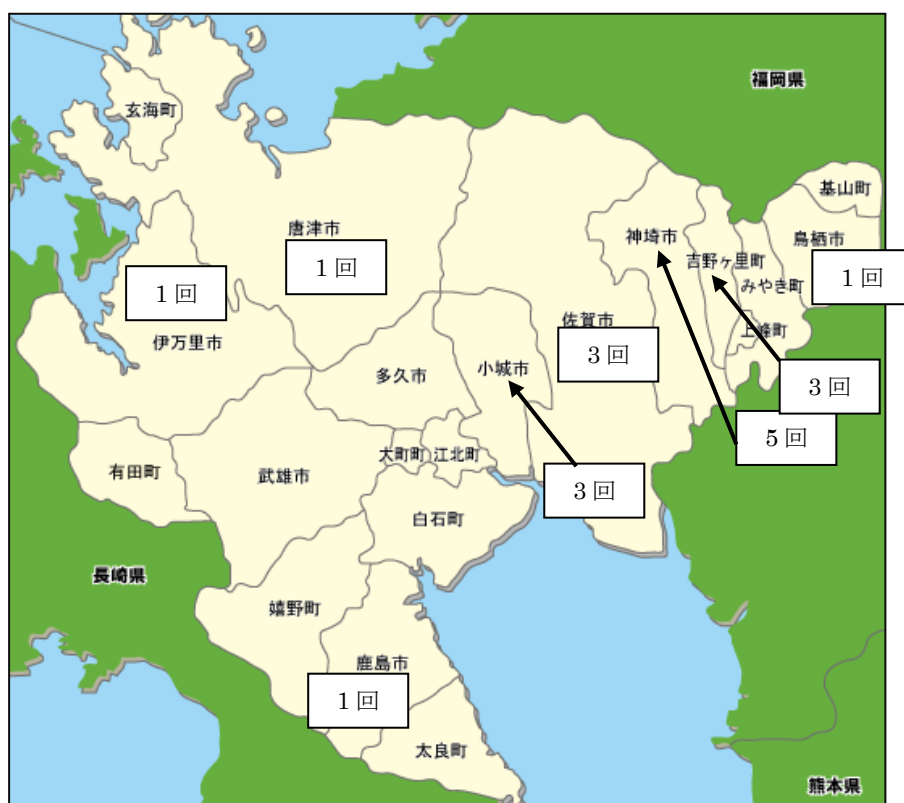
講義で身に付けた知識・技術に加え、食育ボランティア活動を通して企画力・創造力・社会貢献力に更に磨きをかけ、自分の力とします。

IV 平成 29 年度の活動報告

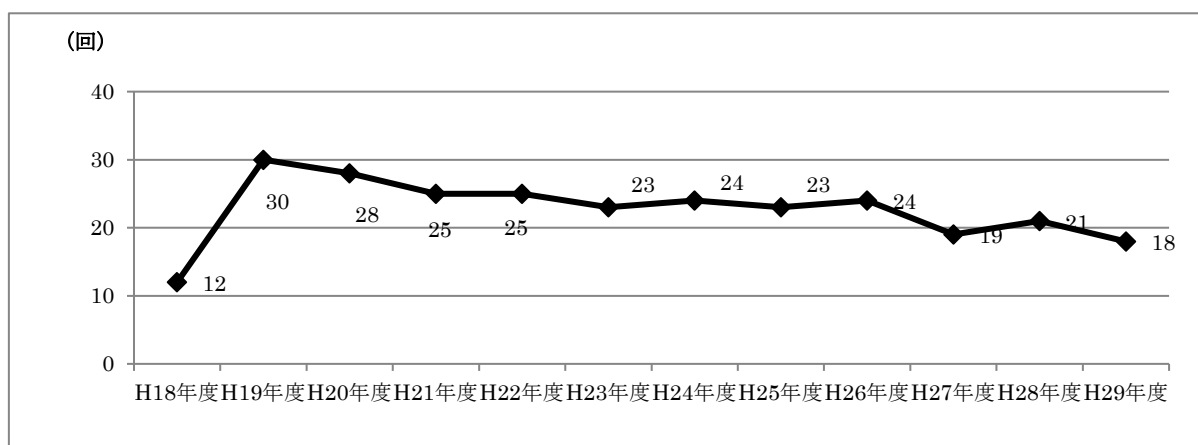
平成 29 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動一覧

	活動場所	活動日	行事名	活動者数	あすなろう 体験履修者等
1	地域	4 月 23 日 (日)	小城普茶料理食事会～春	あすなろ隊 2 名	
2		5 月 28 日 (日)	ひらまつ病院 “スマイル健康フェア 2017”	あすなろ隊 3 名	
3		6 月 25 日 (日)	神埼市子どもまつり	あすなろ隊 3 名 教職員 4 名	リハビリテーション 学科 6 名
4		7 月 29 日 (土)	吉野ヶ里町内園での食育活動 (「吉野ヶ里保育園」)	あすなろ隊 6 名 教職員 3 名	
5		8 月 19 日 (土)	吉野ヶ里町内園での食育活動 (「くすみ保育園」)	あすなろ隊 5 名 教職員 3 名	
6		8 月 29 日 (火)	食育推進交流会	あすなろ隊 4 名 教職員 11 名	
7		10 月 8 日 (日)	ばぶばぶフェスタ	あすなろ隊 7 名 教職員 2 名	
8		11 月 11 日 (土)	ニシムラ感謝フェア 2017	あすなろ隊 3 名 教職員 1 名	
9		11 月 19 日 (日)	小城普茶料理食事会～秋	あすなろ隊 3 名	
10		11 月 26 日 (日)	日曜糖尿病教室及び糖尿病・ 肝疾患市民講座 (唐津)	あすなろ隊 2 名	
11		11 月 26 日 (日)	『食のシンポジウム』宝の 海・有明海 in Kashima	あすなろ隊 1 名	
12		2 月 25 日 (日)	いまり食のまちづくりフォー ラム	あすなろ隊 3 名	
13	教育現場	4 月 24 日 (月)	「海苔ができるまで」の紙芝 居作成後の披露 (ビデオ撮影・受け渡し)	あすなろ隊 7 名	
14		6 月 16 日 (金)	鳥栖工業高等学校定時制 での食育講話	あすなろ隊 4 名 教職員 2 名	
15		9 月 6 日 (水)	神埼保育園でのお茶教室	あすなろ隊 4 名 教職員 2 名	
16	本学	4 月 24 日 (月)	海苔の紙芝居披露 (ビデオ撮 影)・受け渡し	あすなろ隊 7 名 教職員 2 名	
17		10 月 28 日 (土) ～29 日 (日)	学園祭 「食育体験コーナー」	あすなろ隊 10 名 教職員 9 名	
18		12 月 16 日 (土)	ほっとひろば西九大 クリスマス会	あすなろ隊 3 名 教職員 1 名	健康栄養学科 1 名

◆平成 29 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動の県内分布



◆活動回数の年次推移（平成 18 年度～平成 29 年度）



1. 活動報告①（平成 29 年度食育推進交流会）

- 目 的
- ・「西九州大学、佐賀県及び佐賀県教育委員会における食育についての連携・協力協定書」第 2 条第 2 号に基づき食育推進交流会の実施。
 - ・栄養、調理、農業分野などの食育を、総合的かつ効果的に推進する人材を育成。
 - ・食育関係者のネットワークの構築。保育所、幼稚園、学校、地域等における多様な関係者が、互いに連携・協議することで食育推進の実効性を高めることを目指す。

実施主体 佐賀県・西九州大学食育サポートセンター

開催日時 平成 29 年 8 月 29 日（火） 13 時 00 分～16 時 00 分

開催場所 西九州大学 佐賀キャンパス

参加者数 146 名

（ヘルスメイト 14 名、ふるさと先生 14 名、学校関係者 18 名、幼稚園関係者 7 名、保育所等児童福祉施設関係者 46 名、市町行政関係者 7 名、県行政関係者 5 名、その他（企業、食品会社等）20 名、佐賀県庁職員 4 名、西九州大学関係者 11 名）



交流会内容 メインテーマ「～人を育てる食育！地域を育てる食育！～
佐賀の魅力再発見、発信しよう！伝えよう」

時 間	内 容	場 所
13 : 00	開会 主催者挨拶（県・大学） 佐賀県くらしの安全安心課課長 田中拓郎 氏 西九州大学食育サポート運営委員長 石松 秀 氏	西九州大学 佐賀キャンパス 5201 大講義室
13 : 10	講演 「地元食材の魅力を最大限に引き出し、地域に発信 ～私の食育の歩み」 講師：料理研究家 野菜ソムリエ 松尾久美子氏	
14 : 10	休憩	
14 : 20	パネルディスカッション 浜-街交流ネット唐津 代表理事 千々波行典 氏 協同組合 アルタ・ホープグループ 池田龍二 氏 唐津市立打上小学校 栄養教諭 前田和子 氏	
15 : 10	ブース紹介	
15 : 20	交流会 ブースの展示等	
16 : 00	閉会	

実施評価

「人を育てる食育！地域を育てる食育」をメインテーマとして講演とパネルディスカッションを実施した。

講演は、「地元食材の魅力を最大限に引き出し、地域に発信～私の食育の歩み」というテーマで、鹿島市の道の駅や公民館等で地元食材を用いたレシピを提案し続け、料理教室等料理研究家・野菜ソムリエとして活躍されている、松尾久美子氏にお話をいただいた。佐賀の有明海には全国的にも珍しくて美味しい食材がたくさんあることを、地元をはじめもっと多くの人に知ってもらいたいと、地元食材を使った新しいレシピを考案し、情報を発信し続けておられ、有明海の食材を愛し、郷土愛に溢れたお話であった。改めて、佐賀の食材のすばらしさや新たな調理法を知ることができた。

パネルディスカッションでは、「魚の良さを再発見、魚で食育！」のテーマで浜・街交流ネット唐津の千々波氏、協同組合アルタ・ホープグループの池田氏、唐津市打上小学校 栄養教諭の前田氏から、生産者、消費者（流通）、学校のそれぞれの立場での食を通じた活動について紹介があった。水産業を取り巻く環境変化や後継者不足の問題、地元スーパーとして取り組んでいる食育活動、小学校での食育の実際、課題等を知ることができた。生産者、消費者、学校がつながり、みんなで魚の良さを見直し、魚を食べる機会を増やしていくことが、魚の地産地消、佐賀の漁業の活性化につながる、魚の消費についても一度考えさせられる内容であった。

また、展示ブースでは、商品開発した醤油や菓子の紹介など、参加者同士での情報交換ができ、よい交流の機会となった。今後、各団体、職場での食育活動や職場での業務に活かされること、さらに共感できる仲間と繋がっていくことを期待する。

佐賀新聞

平成 29 年 8 月 31 日



食育の大切さ訴える

推進交流会 野菜ソムリエが講演

西九州大短大

佐賀市

健全な食生活を送るため

の「食育」について学ぼうと29日、佐賀市神園の西九州大学短期大学部で食育推進交流会があった。栄養士や農業者など約100人が参加し、講演会やパネルディスカッションを通して食に関する知識を深めた。

講演会には野菜ソムリエで料理研究家の松尾久美子さん(54)＝鹿島市＝が登場



講演する野菜ソムリエの松尾久美子さん
＝佐賀市神園の西九州大短期大学部

(本山航大)

味を引きつけた。松尾さんは地元で採れる食材の魅力を料理教室などで発信し続けており、「地元食材を知ること、地域の歴史や文化を学べ、自然の恵みで生かされている実感をえられる」と食育の大切さを訴えた。

会は平成18年に食育推進のために連携する協定を結んだ佐賀県と西九州大食育サポートセンターが主催した。



2. 活動報告②（学生食育ボランティアあすなろ隊派遣活動）

1) 小城普茶料理食事会～春

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成 29 年 4 月 23 日（日） 9 時～16 時

場 所：小城公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約 60 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名

依 頼 元：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなろ隊の感想》

- ・ 3 回目の参加だったので、流れも分かっていたのでスムーズに動く事ができた。配膳する中で地域の方々ともたくさん関わる事ができた。
- ・ 2 回目の参加で地域の人ともたくさん話ができてよかった。また秋も参加できたらいいなと思った。

2) ひらまつ病院”スマイル健康フェア 2017”

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム）

活動日時：平成 29 年 5 月 28 日（日） 10 時～13 時

場 所：医療法人 ひらまつ病院（小城市）

対 象 者：来場者（51 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名

依 頼 元：医療法人 ひらまつ病院 栄養部



《あすなろ隊の感想》

- ・ 普段あまり接する事の無いお年寄りの方と触れ合う事が出来て良かったです。もう少し知識を身につけておけば、もっと活動の幅が広がると思いました。
- ・ 管理栄養士の先生方の対応の仕方も見れて良かったです。

3) 佐賀県立鳥栖工業高等学校定時制での食事講話

活動内容：食育講話

活動日時：平成 29 年 6 月 16 日（金） 17 時半～19 時

場 所：鳥栖工業高等学校（鳥栖市）

対 象 者：生徒（60 名）、教職員（約 15 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名、事前指導教員 1 名、引率 1 名

依 頼 元：鳥栖工業高等学校定時制



《あすなろ隊の感想》

- ・ 事前準備の時間が足りなかったが、同級生の仲間と協力して活動できたので、反省点は今後に活かしたいと思う。
- ・ 対象者を前に講話をするのは初めてでとても緊張したが、生徒の皆が楽しんで講話を聞いてくれて、とても嬉しかった。

4) 神崎市子どもまつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援

(食育輪投げ、野菜クイズ、魚釣りゲーム、触ってみよう)

活動日時：平成 29 年 6 月 25 日 (日) 9 時～15 時

場 所：神埼中央公園体育館 1 階多目的室 (神崎市)

対 象 者：来場者 (522 名)

活動者数：あすなろ体験 9 名、教職員 4 名

依 頼 元：神崎市子どもまつり実行委員会



《あすなろ隊の感想》

- ・今回、このイベントに参加した事によって、自分から話しかける積極性、お客さんに分かりやすく伝える発信力が要る事を学んだ。
- ・一度の多くの人が来るとうまく対応する事ができませんでした。色々な方と交流する事ができたので良かった。

5) 神埼保育園でのお茶教室

活動内容：煎茶の淹れ方のサポート

活動日時：平成 29 年 9 月 6 日 (水) 13 時 30 分～16 時

場 所：神埼保育園 (神崎市)

対 象 者：園児 (年長児) 20 名

活動者数：あすなろ隊 4 名、教職員 2 名



《あすなろ隊の感想》

- ・お手伝いなど、自分からすすんで出来た。正しいお茶の淹れ方、1 つ 1 つの行動の意味など学ばせてもらい貴重な体験となった。
- ・お茶をいれるマナーを学ばせてもらい、良い経験となった。子どももしっかり正座をされていてすごいなと思った。

6) ばぶばぶフェスタ

活動内容：食育体験コーナーでの支援

(食育すごろく、匂ってみよう、触ってみよう)

活動日時：平成 29 年 10 月 8 日 (日) 10 時～16 時

場 所：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ (佐賀市)

対 象 者：全体の来場者 (約 13,000 名)

活動者数：あすなろ隊 7 名、教職員 2 名

依 頼 元：佐賀県、佐賀新聞社



《あすなろ隊の感想》

- ・小さい子ども達にも野菜や果物を手の感触で伝える事ができ、すごろくも沢山の子が来ていて楽しそうだった。
- ・小さい子と接する機会があまり無いので、接し方があまりよく分からなかったが、参加してとても楽しかった。

7) ニシムラ感謝フェア 2017

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム）

活動日時：平成 29 年 11 月 11 日（土）10 時～17 時

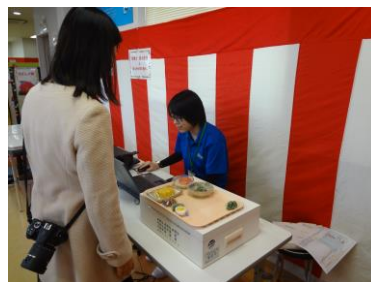
場 所：株式会社ニシムラ ショールーム（吉野ヶ里町）

対 象 者：来場者（約 60 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名、教職員 1 名

（＋ 依頼元側で手配された町管理栄養士 1 名）

依 頼 元：株式会社ニシムラ



《あすなろ隊の感想》

- ・管理栄養士さんの地域の方との接し方や栄養指導の仕方を実際に見る事ができ、勉強になった。
- ・一緒に活動して下さった栄養士さんの栄養指導の技術や勉強に対する積極性、向上心などを肌で感じる事で、改めて国家試験とその後に向け勉強しようと思った。

8) 小城普茶料理食事会～秋

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成 29 年 11 月 19 日（日）9 時～16 時

場 所：小城公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約 60 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名

依 頼 元：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなろ隊の感想》

- ・今回は 3 回目という事もあり、全体の流れ・する事が分かっていたので、いつもよりスムーズに活動ができた。料理の名前や具材を覚えていたので、お客さんにも説明する事ができた。

9) 『食のシンポジウム』宝の海・有明海 in Kashima

活動内容：フードスタイリスト マロンさんの調理実演の補助

活動日時：平成 29 年 11 月 26 日（日）9 時～16 時

場 所：鹿島市生涯学習センター エイブル（鹿島市）

対 象 者：全体の来場者（約 14,000 名）

活動者数：あすなろ隊 1 名

依 頼 元：鹿島市役所 ラムサール条約推進室



《あすなろ隊の感想》

- ・事前打ち合わせに参加していなかったもので、段取りが良く分からなかったが、地域の方達と楽しみながら活動する事ができた。マロンさんから、料理をする時に気をつける事は「色・香り・味」良く仕上げる事であると教えて頂いた。料理はどれも綺麗で可愛く美味しくて、食べた後笑顔になれるものばかりで、充実した一日を過ごせた。

10) 日曜糖尿病教室及び糖尿病・肝疾患市民講座

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム、食育てんびん「はかるくん」）

活動日時：平成 29 年 11 月 26 日（日）9 時～14 時

場 所：ボートレースからつ（唐津市）

対 象 者：来場者（約 300 名）

活動者数：あすなろ隊 2 名

依 頼 元：唐津保健福祉事務所



《あすなろ隊の感想》

- ・実際に参加者の方を相手にして食事の説明を行う事で自分の経験を増やす事ができ、これからも勉強をしてもっと地域を増やしていきたいと思った。
- ・気持ちの面でも、もっと準備すればよかったと思った。自分達だけで物事を進める事が多く、とてもボランティア 2 名ではまわらなかった。しかし、初対面の人にも分かりやすく説明ができ、スタッフとして一生懸命活動する事ができた。

11) ほっとひろば西九大 クリスマス会

活動内容：クッキングコーナーでの支援

（デコレーションクッキー作り）

活動日時：平成 29 年 12 月 16 日（土） 10 時半～13 時半

場 所：西九州大学佐賀キャンパス（佐賀市）

対 象 者：幼児～大人（13 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名、健康栄養学科学生 1 名、教職員 1 名



12) いまり食のまちづくりフォーラム

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム）

活動日時：平成 30 年 2 月 25 日（日）10 時 30 分～15 時

場 所：伊万里市公民館（伊万里市）

対 象 者：小学校 2～4 年生とその父親（12 組）

活動者数：あすなろ隊 3 名

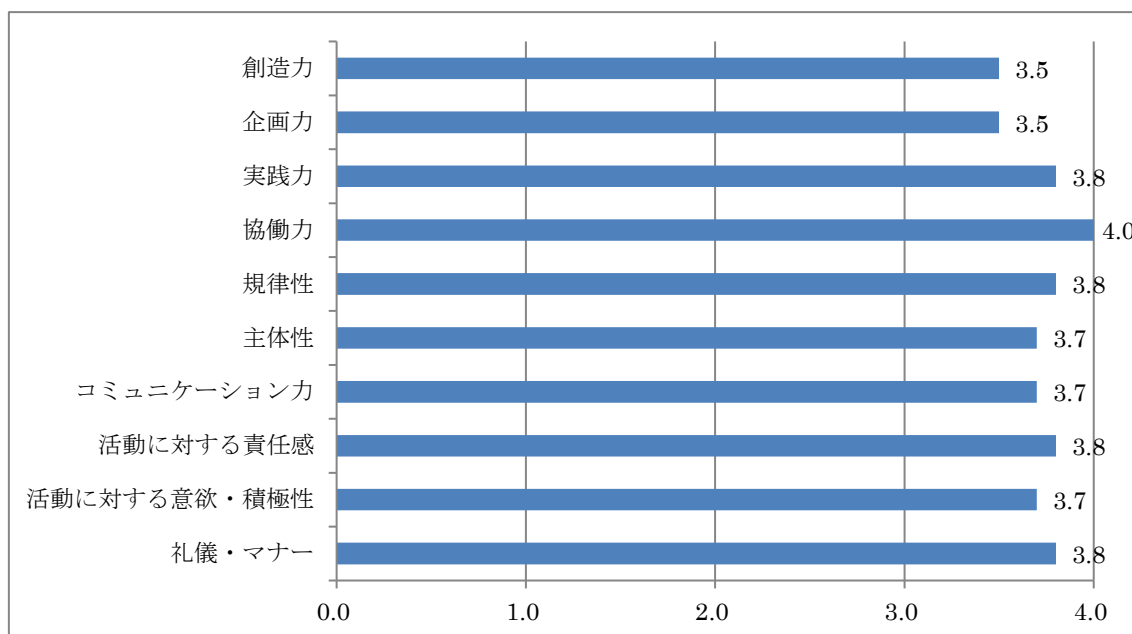
依 頼 元：伊万里保健福祉事務所



《あすなろ隊の感想》

- ・子供達に教えたら、「分かった」と言ってお手際よく使用して食材を切っていて、楽しそうにしているのを見ると自分も嬉しい気持ちになった。楽しく活動できた。
- ・調理では前回のボランティアの反省点を活かして活動できた。

◇◆◇ 学生食育ボランティアあすなろ隊派遣に関する派遣先からの評価 ◇◆◇



(評価方法)

対象：平成 29 年度学生食育ボランティアあすなろ隊派遣先 6 団体

方法：④十分に備えている ③ある程度備えている ②あまり備えていない ①全く備えていない

学生食育ボランティアあすなろ隊派遣先からのコメント

- ・慣れない仕事で大変だったと思いますが、積極的に関わって頂き、ありがとうございました。毎回大変だと思いますが、2回、3回と来て下さって本当に感謝しています。
- ・3回、4回と複数回の参加、又、初めて参加された方も感動したと言って下さって、私たちも本当に嬉しく思います。ありがとうございました。
- ・SAT システムのサポートでは、本当に助かりました。データの出力方法（様式の選択等）やプリントの調整など大変だったと思います。学生さまの経験で記憶して頂いたら幸いです。
- ・パワーポイントも素晴らしい内容のものが準備されていて、学生の皆様のご説明も分かりやすく、本校の生徒もよく理解できていました。どうもありがとうございました。また、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・学生さんには大変お世話になりました。今度は企画の段階から御参加頂けたらもっといいイベントになると思いました。これからも御協力よろしくお願い致します。
- ・遠方からおいでいただきありがとうございました。参加者からも貴重な体験ができたとの声があがっていました。

3. 活動報告③ (学園祭)

活動内容：食育体験コーナー

(非常食・備蓄食材の展示、食育すごろく、魚釣りゲーム、匂ってみよう、触ってみよう、食育てんびん「はかるくん」)

活動日時：平成29年10月28日(土)・29日(日) 9時～16時00分

場 所：西九州大学神埼キャンパス コミュニティホール

対 象 者：28日約40名 29日約60名 (食育体験コーナー来場者)

活動者数：28日あすなろ隊学生6名、教職員6名

29日あすなろ隊学生5名、教職員5名

◆非常食・備蓄食材の展示



◆食育すごろく



◆魚釣りゲーム



◆食育てんびん「はかるくん」



◆匂ってみよう



◆触ってみよう





みんなで
遊びに来てね☆

食育体験コーナー

開催日時 平成29年10月28日(土)・29日(日) 10時～16時

開催場所 コミュニティホール
(西九州大学内)

☆非常食・備蓄食材の展示
いざという時のために...
準備しておきたい物などの紹介をします!

☆触ってみよう 箱の中身は何??

☆匂ってみよう 何の匂い??

☆はかるくん 食べ物と運動のバランス
が分かります!!

☆食育すごろく 食生活について
楽しく学ぼう!!

食育サポートセンター

(パンフレット掲載チラシ)

《あすなろ隊の感想》

- ・1日目は小さい子の扱いが分からず戸惑いがあったが、お母さん・お父さん方を見て勉強になった。2日目にドッジボールがあった為、1日目より来て体験して下さる人が多く、笑顔で接する事ができたと思う。お子様から高齢の方まで幅広い年齢層の方と交流する事ができた。災害食は自分自身も勉強になり、先生方と沢山お話をし学んだ事が多々あった。
- ・今回はあまり積極的に参加する事ができていなかった。はかるくんを子どもは楽しんでやっていたけど、主婦の方々は割と真剣に考えられていた。自分の間食分のカロリー消費を考えると、相当運動しなければならないと思った。
- ・初めて学園祭に参加して、いつものボランティアと違った雰囲気を楽しむ事ができた。

4. 活動報告④（「吉野ヶ里町内園での食育活動」）

目 的 本学学生の地域でのボランティア活動により、児童に食育で育みたい力（マナー、料理のスキル、食文化など）を楽しく、実践させることを目的とする。

実施主体 吉野ヶ里町・西九州大学食育サポートセンター

開催日時 1回目：平成29年7月29日（土）10時～11時
2回目：平成29年8月19日（土）10時～11時
3回目：日程の合う園がなかった為、次年度への繰り越しとなった。

開催場所 1回目：吉野ヶ里保育園 2回目：くるみ保育園

対象者数 1回目：園児 8名 2回目：園児 15名

内 容 1・2回目：手洗いの仕方（グリッターバッグを用いて）

活動者数 あすなろ隊（1回目：6名 2回目：5名） 教職員3名

評価

1回目・2回目ともに手洗いの仕方というテーマで正しい手洗いの方法について体験してもらった。替え歌やパネルを用いての手のあらい方やグリッターバッグを使用し手の汚れがどの指に多いかなどを実際に見てもらった。

園児の反応や取り組む姿など園児との交流を通して学んだことも多く、課題と反省もあった。この経験を学生主体の食育活動としていかに取り入れていくか今後の進展に期待したい。



《あすなろ隊の感想》

- ・保育園の子たちとコミュニケーションを取る事が出来たし、今回の活動内容を踏まえて、子ども達に手の洗い方をしっかり伝える事ができたと思う。自分にとっても良い経験になったと思う。
- ・前回同様スムーズに進める事ができた。保育園児を相手でも、手の菌の事について知ってもらえて、楽しく手洗いをする事ができた。

5. 活動報告⑤（学生の教材作成の活動）

◎「紙芝居作成」の活動報告

活動内容	「海苔ができるまで」の紙芝居作成後の披露（ビデオ撮影）・受け渡し
活動日時	平成 29 年 4 月 24 日（月） 活動回数（昨年度分を含め 25 回）
活動場所	西九州大学神埼キャンパス
対象者	保育園児
活動者数	あすなる隊 7 名、教職員 2 名
依頼元	佐賀県有明海漁業協同組合 南川副支所
活動の流れ	平成 28 年度は、保育園児に分かりやすい紙芝居を作った。平成 29 年度は出来上がった紙芝居を佐賀県有明海漁業協同組合の方々の前で披露し、受け渡しをおこなった。実際に保育園で使用していただいております、とてもわかりやすく好評であるとの報告を受けている。

評価

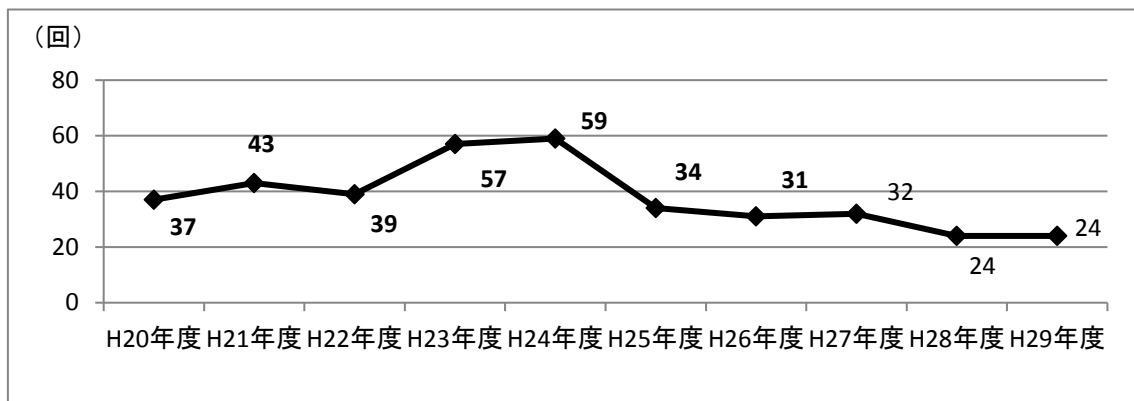
紙芝居の作成を通じて、身近な「海苔」について深める事ができた。作成するにあたり、海苔の作業の専門用語を噛み砕いてセリフにすることを心がけ、佐賀海苔のおいしさや佐賀の特産物への愛着、生産者への感謝の気持ちも盛り込むようにした。この体験を通じて、園児への教育手法を学び、学生自身、佐賀海苔への理解を深めることが出来たと考える。

保育園等での紙芝居の実演は、佐賀県有明海漁業協同組合の方々が行っている。6 月に佐賀県内 4 園での実演があったが、残念ながら都合が合わず学生は参加できなかった。佐賀県有明海漁業協同組合の方からは、とても好評であるとの報告を受けており、学生も苦労して取り組んだ甲斐があったと喜んでいる。機会があれば、実演現場に出向き、紙芝居が園児に受け入れられているか評価を行いたい。



6. 教材の貸出状況

◆教材貸出回数の年次推移（平成 20 年度～平成 29 年度）



① 食育 SAT システム（貸出回数 8 回）

貸 出 先	利 用 目 的	貸出回数
ひらまつ病院	イベント（スマイル健康フェア 2017）	1 回
やよいがおか鹿毛病院	事業（お仕事探検隊）	1 回
嬉野市役所	イベント（うれしの幸せまつり）	1 回
㈱ニシムラ	イベント（ニシムラ感謝フェア 2017）	1 回
中原特別支援学校	授業（栄養指導を含めた食育の授業）	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室）	1 回
伊万里保健福祉事務所	イベント（いまり食のまちづくりフォーラム）	1 回
金立特別支援学校	授業	1 回

（貸出風景）

ひらまつ病院

スマイル健康フェア 2017

日曜糖尿病教室及び

糖尿病・肝疾患市民公開講座



② フードモデル（貸出回数 1 回）

貸 出 先	利 用 目 的	貸出回数
佐賀県立金立特別支援学校	授業	1 回

③ 食育天びん “はかるくん” (貸出回数 6 回)

貸 出 先	利 用 目 的	貸出回数
西九州大学健康栄養学部	授業 (エルダーカレッジ)	1 回
久留米市保健所	イベント (久留米大学学園祭)	1 回
やよいがおか鹿毛病院	事業 (お仕事探検隊)	1 回
嬉野市役所	イベント (うれしの幸せまつり)	1 回
JCHO 伊万里松浦病院	栄養教育	1 回
唐津保健福祉事務所	事業 (日曜糖尿病教室)	1 回

(貸出風景)

うれしの幸せまつり



④ その他の教材 (貸出回数 9 回)

貸出教材名	貸出先	利用目的	貸出回数
はてなボックス (1 回)	JCHO 伊万里松浦病院	栄養教育	1 回
	神崎市役所	栄養教育	1 回
野菜クイズ (1 回)	JCHO 伊万里松浦病院	栄養教育	1 回
食育すごろく (1 回)	西九州大学 ESRD サークル	事業 (あそびフェスタ、	1 回
グリッターバグ (2 回)	神崎市役所	ヘルスメイトステップアップ教室	1 回
	神崎市保健センター		1 回
魚釣りゲーム (1 回)	JCHO 伊万里松浦病院	栄養教育	1 回
消化器について 知ろう (2 回)	JCHO 伊万里松浦病院	栄養教育	1 回
	神崎市役所	栄養指導	1 回

(貸出風景)

教材：食育すごろく 西九州大学 ESRD サークル（あそびフェスタ）



◎貸出先からの感想

食育 SAT システム

- ・本物そっくりのサンプルでイメージがしやすく、また、選んで乗せるだけで自分の食事バランスが確認できる事に驚きと感動をされていた。指導する側も、目の前でバランスを整えたり、気付きを話す事ができ、データで変化を残せた事も良かった。
- ・栄養の事を何も考えず好きな物を好きなだけ選択した場合と、事前に学習しておいた主食・主菜・副菜等を活用し選択した場合と、実際に2日に分けて取り組んだが、理解が難しい生徒にも星の数の評価は効果的だった。周囲の友達からも歓声がわき、生徒達は普段以上に意欲的に取り組んでいた。好き嫌が多い生徒も「ちゃんと野菜たべなきゃな、」と発する様子があり、生徒の成長段階に応じて再度活用させていただきたい。
- ・皆さん楽しみながら体験され、結果説明を興味深く聞かれていました。日ごろの食事の見直しの機会になったとの意見もありました。

食育天びん “はかるくん”

- ・食事のエネルギーとそれを消費するために必要な運動量を目で見て楽しめるゲームで、子どもはもちろん、大人も楽しんで参加されていた。特に、おやつやジュースと運動のバランスを見て、「これはたくさん食べられんね」などと実感する様子が見られ、よい啓発の機会になったと感じた。
- ・特に子どもさんが興味をもって体験されていた。

その他の教材

- ・野菜だけでなく、おもちゃなども間に入れながら、色々触った感触をみんなで伝えながら楽しく学ぶ事ができていた。(はてなボックス)
- ・野菜がどんなになるのか知らない子供も多く、みんなで考えていた。(野菜クイズ)
- ・洗った残りの多さにびっくりした、2度洗いをすることできれいになった、これまで簡単にすませていたが、しっかり洗う様に努める。普段の手洗いがどのくらいできているかを再確認され、手洗い方法を見直す良い機会となりました。(グリッターバグ)
- ・腸の媒体の長さに驚いている様子でした。子ども達に触らせると「気持ちいいね」「お掃除モップみたいなのがあるね」などの声があがりました。フェルトの媒体では、食事内容とうんち(バナナ、コロコロ、べちゃべちゃ)の関係性を理解している様子でした。(消化器について知ろう)